

## 1.はじめに

皆さんこんにちは。高校一年の\*\*です。鉄道研究部では 11/13(日)、11/20(日)に日光・鬼怒川エリアで撮影会を実施しました。ここでは 13 日乗車班の様子をお伝えます。

## 2.本編

朝 5:50、日曜日だが平日と同じくらいの時間に起きた。集合は 8:10 に浅草駅である。筆者の最寄り駅からは横浜駅に出るだけでも 20 分かかるので支度や朝食も考えるとこのくらいの時間に起きないと間に合わない。

浅草駅に行くと先に待っている人が 3 人いた。一緒にエスカレーターを上がって改札前に行き、後から来る後輩を待つ。この時間帯は特急列車と区間準急が発着する。日中は北千住行きの特急列車が発着しているホームに館林駅などに向かう優等列車が発着するというのはなかなか新鮮である。しばらく待つと時間通りに全員集まった。担当者の開会の詔の後、特急券を受け取った。今回の撮影会で使う切符は「デジタル日光世界遺産フリーパス」である。これは浅草駅～下今市駅の往復+下今市駅以北の東武線乗り放題+日光エリアのバス乗り放題+各種優待がついて 2,500 円というかなりお得な切符である。ただしスマホからクレジットカードを使用してでないと購入できないので注意が必要である。このフリーパスは有人改札で係員に提示するという意外とアナログな方式である。

改札の中に入るとちょうど特急が発車するらしく「Passenger」という発車メロディが流れる。ターミナル駅なのにフルコーラスではない。いい曲だと思うので個人的にはフルコーラス流してほしい。乗車する特急は最新型(といってもデビューから 5 年たった)リバティである。

浅草 8:30 発 ▶▶▶ 下今市 10:12 着
東武 500 系/特急リバティきぬ 109 号鬼怒川温泉行き/6 両



500 系リバティ

窓側（東側）の席に座る。発車すると早速急カーブに差し掛かる。このカーブは制限速度 15km/h とかなり遅い。ちなみに分岐器の制限速度は 45km/h 程度が一般的である。隅田川を渡る鉄橋の上からは独特な形状で有名なアサヒビールの本社ビルなどが見える。川面に朝日が反射してのどかな下町の日常という感じであった。鉄橋を渡り終わると少し速度を上げてとうきょうスカイツリー駅に滑り込む。スカイツリーを見上げたが高すぎてよく見えない。発車すると列車は下町を進む。途中の鐘ヶ淵駅では通過線があるのに減速した。どうやらカーブがきついかららしい。階段付近しか屋根がないかと思ったら車掌の立つ位置だけぼつんと屋根があった。しばらくすると北千住駅に到着した。ここは JR 常磐線や東京メトロ日比谷線との乗換駅で東武伊勢崎線（スカイツリーラインとは呼ばない）の実質的なターミナルとなっている。この駅で多くの乗客が乗り込んできた。この駅でも「Passenger」が流れるが、この駅では 0.3 コーラスくらいしか流れない。

発車すると複々線に入り順調に加速する。急行列車の最高速度は 100km/h だが、特急列車の最高速度は 120km/h であり、次々と駅を飛ばしていく。複々線区間内でも草加駅と越谷駅には急行線にも待避線があり、急行列車を追い抜かしていく。複々線は北越谷駅で終わりだが、それでも列車はスピードを落とさず走行し、春日部駅に到着した。この駅は東武野田線（アーバンパークラインとは呼ばない）との乗換駅である。大人気アニメ「クレヨンしんちゃん」の舞台でもあり、駅名表など至るところにキャラクターの装飾がされていた。発車メロディも「オラはにんきもの」という曲で、明るい曲調が好きなのだが車内にいるので全く聞こえなかった。発車すると車窓は徐々に住宅街から田園風景へと変化していく。東側の座席に座っていたので朝日に照らされて少し暑かった。

東武動物公園駅を通過して日光線に入る。途中の南栗橋駅近くには南栗橋車両管区という東武鉄道最大の車両基地があり、東上線系統を含む全車両の検査などを行っている。東武博物館所有の引退した車両などが留置されていた。これから乗車する SL の修繕もここで行われた。この駅周辺では東武鉄道が開発を進めているようで特急停車駅にもなるらしい。小田急電鉄が海老名駅周辺に力を入れていて本社まで移転したのを彷彿とさせる。

JR 線との乗換駅である栗橋駅も通過し、関東平野の田園風景を駆け抜ける。途中で新古河駅という駅があるが茨城県古河市ではなく埼玉県にある。日光線は茨城県に近づきはするが、通りはしない。その後有名な群馬・栃木・埼玉の三県境の近くを通過し、群馬県に入る。群馬県内では板倉東洋大前という駅を通過した。この駅は朝夕のごく一部の特急が停車する。周辺は駅名通り東洋大学板倉キャンパスを核に開発が進められたが、板倉キャンパス内の学部は 2024 年春に都内などへ移転することが決まり問題となっている。町としては大学があることで若者が集まり地域が活性化するが、大学としてはアクセスのよい都心でないと学生が集まらないという事情があり難しい問題である。

この駅を通過するとすぐに栃木県内に入る。高架に上がって JR 両毛線と並行すると栃木駅に

到着する。到着時には両毛線の時刻を案内するなどかなり融和的だと感じた。かつては対日光輸送でしのぎを削っていた国鉄→JR と東武の両社だが、近年は直通運転を開始するなど協調的な印象である。この駅を発車すると高架を降りて地上に戻る。東武宇都宮線との分岐駅である新栃木駅を通過する。JR との乗換駅には停車して自社路線の分岐駅を通過するというのは面白い。ちなみに富山県の富山地方鉄道の特急はあいの風とやま鉄道(元 JR)との乗換駅である新魚津駅を通過して隣の(乗り換えも車両基地もない)電鉄魚津駅に停車する。

このあたりになると雲行きが怪しくなってくる。あたりには霧が立ち込めていて景色があまりよく見えなかった。霧が晴れてくると間もなく新鹿沼駅に到着した。発車すると日光の山並みが近くに迫ってくる。しばらく走行すると下今市駅に到着する。日光方面と鬼怒川線の分岐駅とあって多くの客が降りた。この駅で SL に乗り換える。SL の運行開始に当たっては鬼怒川線の駅や制服のリニューアルが行われ、駅名表は国鉄風、制服は詰襟になった。路線全体がレトロな雰囲気になるように工夫されており、一種のテーマパークのようである。しばらくすると SL が入線してきた。

下今市 10:29 発 ▶▶▶ 鬼怒川温泉 11:05 着
SL 大樹 3 号鬼怒川温泉行き



SL 大樹

汽笛を聞くのは約 3 年ぶりなので新鮮である。多くの人がカメラを向けていた。車内に入って窓

側の座席に座る。乗ってきたリバティの10倍ふかふかだった。ハイケンスのセレナーデが流れてまさに国鉄の客車列車という感じである。列車は汽笛を響かせて発車する。1号車だったので迫力があつた。アテンダントの方によるアナウンスが入る。終点までずっと観光案内などのアナウンスがあつた。しばらくするとアテンダントの方が巡回してきて乗車記念証とアテンダント通信を渡してくれた。アテンダント通信は手書きで作り込んであつた。私は頼んでいないが有料の記念撮影サービスまであつた。ここで突然だが駅名クイズである。「大谷向」駅は何と読むだろうか。答えは最後にお伝えする。ちなみに私も読めなかつた。

西側は鬼怒川の溪流と山々が見える。紅葉が見ごろで非常に美しい景色である。しかし筆者が座つた座席は東側である。西側ほどいい景色ではないがそれでも山々や紅葉、道路などが見えた。列車は東武ワールドスクウェア駅に到着する。この駅の駅名表は最新の仕様だつた。気持ちが令和時代に戻る。発車メロディは「東武ワールドスクウェアテーマソング」である。やはり聞こえなかつたものの後日ネットで調べたところ爆音でしかも音割れしているらしい。発車するとすぐに終点の鬼怒川温泉駅に到着する。下今市駅からたった30分とあつという間であつた。フリーパスを係員に見せて改札を出る。ここからは自由行動である。

駅舎を出ると日光の山々が目の前に広がっていて、いかにも温泉地の玄関口という感じだつた。駅前に足湯があるので入る。日曜日というだけあつてにぎわつていた。湯加減がちょうどよく気持ちいい。もともとすぐに折り返して日光に行くつもりだつたがせっかく来たのにもったいないのでしばらくここにとどまることにする。しばらくすると転車台周辺に人が集まつた。SLの入れ替え作業が行われるようである。

汽笛を響かせながら入線してくる。「機関士に手を振つての応援をお願いします。」というアナウンスがあつたが、この年頃になると多少抵抗もある。汽笛は3km離れたところまで聞こえるようで、それを目の前で聞いているのだから全身が震えるような大迫力である。「胸に響く」とはこのことをいうのだと思う。動画などでは絶対に味わえないので皆さんも是非一度実際に聞きに行つてみていただきたい。SLは転車台で折り返していった。そろそろお昼ご飯の時間である。このあたりの名物といえばそばと湯波であるので、湯波そばを食べることにした。京都では「湯葉」だが日光では「湯波」である。まず駅前の店に向かつたが満席だつた。仕方なく隣の店の前で掲示されていたメニューを眺めていると店員の方に「いらっしゃいませ、いらっしゃいませ、いらっしゃいませ、・・・」とまくしたてられ、もはや入るしかなくなつてしまつたのでこの店に入り、湯波そばを注文する。



紅葉が美しい鬼怒川の溪谷

麵にはこしがあっておいしかったし、湯波もおいしかった。店を出たら鬼怒橋岩大吊橋へ向かう。道路からは鬼怒川の溪流や紅葉がきれいに見えたので写真に収めておく。駅から徒歩 10 分ほどで吊り橋に着いた。景色がきれいだということでここに来たのだが渡ってみると思ったより揺れる。吊り橋が初めてということもあってあまり景色どころではなかった。「吊り橋効果」といってカップルが吊り橋を渡ると吊り橋の揺れに対するドキドキを相手に対するドキドキと勘違いして相手が好きになるというものがあるが、実際多くのカップルが渡っていた。

吊り橋を渡ったら展望台に向かうが、上り坂がかなり険しい。落ち葉で足元も悪かった。息が上がりかけたが何とか展望台に到着した。さっき渡ってきた吊り橋が真下にある。鬼怒川の溪流や温泉街も見える。苦労して上ったかいがあった。展望台には研究班の先輩(前 Web 委員長)がいて挨拶を交わした。どうやらここで SL を撮影するらしい。確かによく見ると SL の煙が見える。しばらくすると汽笛が響き、SL が発車していった。ほぼ同じ頃に雨が降ってきた。天気予報では 15 時頃から雨が降ると言っていたのに。山沿いだから天気が不安定なのだろう。



展望台からの景色

雨でさらに足場が悪くなった階段を下りる。急なので結構怖かった。先輩と雑談しながら坂を下りていく。先輩はこの後鬼怒川温泉の廃墟ホテル群を見に行くらしい。滝を見に行く私は吊り橋の前で温泉街に戻る先輩と別れた。案内板の方向に進んだら車道があって少し困惑したが、「このまま進んで大丈夫じゃないですか」という他の旅行客の方の言葉を信じてそのまま進んだ。トンネルを抜けると滝があった。自然の音は心に沁みる・・・と言いたところだが、上を車が走り抜けていくので心洗われる音色だというわけでもない。もう一度吊り橋を渡って温泉街へ戻る。2 回目なので恐怖はなく景色を存分に楽しめた。駅に戻って日光に向かおうとしたが、列車の発車時刻まで 40 分もある。列車の運行間隔が約 1 時間なので仕方ない。といっても暇である。待合室でスマホをいじっていると SL が転車台に入線するというので見に行った。今度は立つ位置を変えたので SL の正面が見えた。やはり迫力がある。

鬼怒川温泉 14:25 発 ▶▶▶ 下今市 14:52 着
東武 20400 型/普通下今市行き/4 両

駅舎に戻ると東武東上線沿線の観光情報が流れていた。もっと他に流すことがある気がするが。しばらく待つと下今市駅行きの普通列車が入線してきた。ワンマン列車で扉はボタンを押して開け閉めするという方式である。慣れていない様子の利用客が多かった。鬼怒川温泉駅の発車メロディは「東武ワールドスクウェアテーマソング」だということで楽しみにしていたが、ワンマン列車はブザーしか鳴らないらしい。残念である。西側の窓から SL で見られなかった鬼怒川の溪流を眺める。非常に美しかった。

下今市 14:55 発 ▶▶▶ 東武日光 15:04 着
東武 20400 型/普通東武日光行き/4 両

下今市駅で東武日光駅行きに乗り換える。たった 2 駅なのであつという間に東武日光駅に到着した。本当は日光観光を楽しみたいが時間がないのでできない。駅前には路面電車が展示されていた。昔は日光にも路面電車が走っていたらしい。暇で仕方ないので細部まで眺めた。駅に戻って観光案内所に立ち寄る。フリーパスを提示して入浴剤を受け取る。鬼怒川温泉の湯が自宅で楽しめるらしい。しばらく待合スペースでスマホをいじったのち、ホームに入場して列車の写真を撮った。特急ホームにはスペーシアとリバティが並んでいた。新型スペーシアが登場するのでスペーシアもいつまで見られるかわからない。この駅の発車メロディは「夜のストレンジャー」といって私が東武の発車メロディの中で一番好きなメロディである。特急列車の発車の際に生で聞けたが、本当にいい曲である。しかも 1.7 コーラスくらい鳴ってくれる。本当に来てよかった。



リバティの模型



駅前の路面電車



スペーシアとリバティの並び



駅構内の紅葉

東武日光 16:03 発 ▶▶▶ 下今市 16:12 着
東武 20400 型/普通南栗橋行き/4 両

この後普通列車に乗り込み、下今市駅に帰った。集合時刻まで時間があるので SL 歴史館を見学する。転車台に SL が入線してくるので見学しに行く。楯岩展望台で会った先輩にまた会った。転車台はライトアップされていて綺麗である。鬼怒川温泉駅と同様の動きをした後機関庫に入線していった。見学中小雨が降ってきた。見学終了後改札に集合する。待合室も含めて木製でこぢんまりとしていて昭和時代の国鉄駅を思わせる雰囲気である。雨降りの夕方となればより一層雰囲気が出る。しばらくすると全員集合したので入場してホームに向かう。高2の先輩は数年前に来たことがあるらしく「駅名標が全くくたびれていない。くたびれてなんぼなのに。」と言っていた。



下今市機関区



国鉄風の駅名標

下今市 17:02 発 ▶▶▶ 浅草 18:45 着

東武 100 系/特急きぬ 146 号浅草行き/6 両

しばらくすると日光詣仕様のスペースアが入線してきた。車体は金色にボディに黒色と朱色のラインという高級感あふれるデザインとなっていて、側面には世界文化遺産に指定された日光の三社寺の紋があしらわれている。窓側の座席に座るが、もうすっかり日が暮れて景色らしい景色も見えない。ただし栃木駅周辺は地方都市らしく明かりが多かった。栗橋駅を通過した辺りからは住宅街に入り明かりも増えてきた。その後春日部駅に停車したが発車メロディはまたしても聞こえなかった。北越谷駅を通過すると複々線の高架に入り景色が良くなる。その後も列車は快走し北千住駅に停車した。発車するとライトアップされたスカイツリーが綺麗に見えた。下町の町並みの中で圧倒的な高さで輝きを誇る。とうきょうスカイツリー駅に停車し隅田川橋梁を渡る。渡り切ったら終点浅草駅である。改札を出た後担当者が閉会の詔を述べ解散した。



日光詣仕様のスペースア

銀座線に乗り換える。始発なので座れたが、日曜の夜なので混雑している。上野駅で東海道線に乗り換える。常磐線からの品川行きに乗ったが非常に空いていた。同じ号車に私のほかは1人しかいない。東京都心とは思えない乗車率である。綺麗な東京の夜景が楽しめるだろうと期待していたが、日曜なので消灯しているビルも多くそれほどでもないと感じた。ただし東京タワーはライトアップされていて美しかった。その後横浜駅で乗り換え、最寄り駅で下車し帰宅した。

### 3.おわりに

さて、いかがでしたでしょうか。このような大掛かりな旅行には行けていなかったのが楽しかったです。ちなみに「大谷向」駅は「だいやむこう」駅と読みます。最後までお読みいただきありがとうございました。